

日本発の医療・創薬を学ぶ

科目責任者 相澤直樹
学年・学期 1学年・2学期

I. 前 文

日本は医療および創薬の先進国としての地位を確立してきた。本講義では、日本人あるいは日本企業が、世界に先駆けて行ってきた医療や創薬の歴史について、当時の歴史背景・創薬開発秘話等も交えながら学び、医学全般、特に薬理学を身近に感じることで、今後の医学部教育を円滑に進めていける土台作りを目的とする。

II. 担当教員

講 師 相澤直樹 (薬理学)
助 教 竹井元 (薬理学)
学内助教 森田亜州華 (薬理学)

III. 一般学習目標

日本人または日本の企業が、世界に先駆けて開発してきた医療および創薬の歴史を学び、医学および薬理学を勉強する上での予備知識を備える。

IV. 学修の到達目標

- 1) 高峰譲吉とアドレナリンを結び付けて説明できる。
- 2) 華岡青洲が開発した世界初の麻酔薬 (通仙散) の歴史を説明できる。
- 3) 柳町隆造と体外受精を結び付けて、生殖医療の歴史を説明できる。
- 4) 大村智が発見したイベルメクチンの創薬と歴史を説明できる。
- 5) 糖尿病治療薬の開発に貢献した日本人基礎研究者を説明できる。
- 6) エーザイが開発した認知症治療薬ドネペジルを説明できる。
- 7) アステラス製薬 (山之内製薬) が開発に寄与した泌尿器疾患薬を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	8	23	水	5	高峰譲吉とアドレナリン	相澤直樹	1
2		30	水	4	華岡青洲と通仙散 (麻酔薬)	相澤直樹	1
3	9	6	水	4	生殖医療 柳町隆造と体外受精	竹井元	1
4		13	水	4	大村智とイベルメクチン	相澤直樹	1
5		27	水	4	日本の基礎研究者と糖尿病治療薬	森田亜州華	1
6	10	4	水	4	エーザイとドネペジル (認知症治療薬)	相澤直樹	1
7		11	水	5	アステラス製薬 (山之内製薬) と泌尿器疾患薬	相澤直樹	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

レポート（80%）、出席状況・態度（20%）によって評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

参考書

- ①日本科学の先駆者高峰譲吉 アドレナリン発見物語 山嶋哲盛 著 岩波ジュニア新書
- ②世界を救った日本の薬 塚崎朝子 著 講談社

VIII. 質問への対応方法

実験中以外は随時受け付けます。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

必要に応じ，レポート等の評価の結果を本人に開示する。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間
シラバスに記載された内容を参照すること。

XII. コアカリ記号・番号
A-2-2, F-2-8,